

『高知 CST 西部シンポジウム』を開催しました！

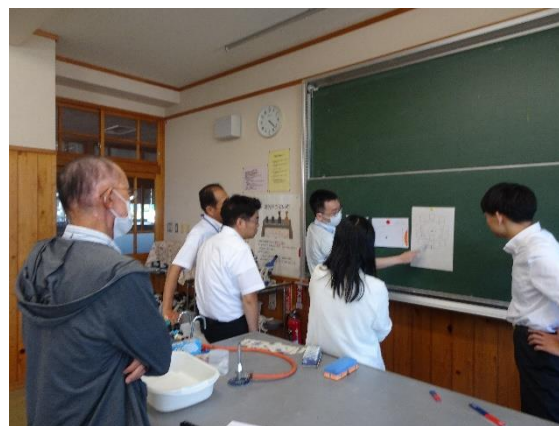
8月1日、四万十市立中村中学校の理科室を会場として、幡多地区科学教育研究会との共催で、CST シンポジウムを開催しました。CST や CST 以外の先生方、県教育委員会・西部教育事務所の指導主事、大学教員等、24名が参加し、猛暑にも負けないくらい熱気に溢れた研修を行いました。

【土佐清水ジオパークの学習】



土佐清水ジオパークの専門員の富永紘平氏と森口夏希氏を講師にお迎えし、土佐清水ジオパーク全体の紹介や取り組みについて紹介いただきました。ジオパークでは、「郷土学習」や「防災学習」、「理科学習」、「教材開発」、「教員向け研修」などの教育活動が行われています。特に、小・中学校への出前授業や土佐清水市の理科部会の先生方と開発された教材や学習プログラムは参加者の関心も高く、多くの質問が寄せられました。児童生徒の興味・関心を高める地質教材について、貴重な情報を得る機会となりました。

【実験講習会】



講師の中城満先生（高知大学）から、理科の授業における「具体と抽象の往還」や「ICT活用」、素材を「教材化」するうえで大切な視点について講義をいただきました。どのような素材が教材として有効か、また、デジタル素材をどのように教材として活用したらよいかについてグループ協議を行い全体で共有することにより、デジタル教材の有効活用について学びを広げました。また、中学校の天体学習（金星の満ち欠け）の自作教材についてご紹介いただき、その有用性や改善点について話し合うことを通して、教材開発への理解を深めました。具体と抽象を往還することを意識することの重要性や、教材研究の面白さ等について多くのご示唆をいただき、大変有意義な研修となりました。 (高知 CST 協会 小田通)